



オットー・バンコクの「銃を折るキリスト」

ナチスに抵抗し、退廃芸術との烙印を押された作家の作品

国家主義に抗する道

ボンヘッファーとその時代を手がかりに

かつて、止められなかったアジア・太平洋〈大東亜〉戦争がある。
とくにアジア・太平洋諸国の隣人に犠牲を強い、幾多の命を奪った戦争と、その加害者であった事実。

「国家主義」が台頭し、国民主権が実質的に奪われている今の日本で、
戦争する国家への法的準備が着々と、しかも強引に行われる今の日本で、
過去の重大な過ちを再び繰返さない為に、思い起こすべきことがある。
政治主権者である市民として、キリストに従う信仰者として、声を挙げ行動すべきことがある。

スライド上映とお話：久野真一郎さん

日本キリスト教会札幌琴似教会牧師

2017年8月27日(日) 13:00 ~ 14:30

主催・会場 日本キリスト教会札幌豊平教会

札幌市豊平区豊平6条3丁目5-15

(地下鉄東豊線「学園前」駅1番出口より徒歩5分)

電話 011-811-6838 FAX 011-811-6847

電子メール toyohirachurch@jcom.home.ne.jp

ホームページ <https://www.ccjtoyohira.com/>



予約不要・入場無料・どなたも歓迎！

戦後 50 年を迎えての日本キリスト教会札幌豊平教会の罪の告白と新たな宣教への決意

「教会は、主イエス・キリストをかしらと仰ぎ、聖霊の働きにより、神の救いの福音のために集められたキリストのからだであって、イエス・キリストのほかに、よって立つべき岩をもたない。しかし、わたしたちの教会は、その歴史の中で、国家権力の不当な要求に屈し、天皇礼拝や、神社参拝を強いられても、十分に戦うことができず、政府の方針にのっとって教会合同を行い、聖戦の名によって行われた侵略戦争のため、自国を含めてアジアの諸国民と諸教会の生命と権利が侵害されても、真にキリストの証人としての役目を果たし得なかった」（「現代日本の状況における教会と国家に関する指針」日本基督教会、1983年）

わたしたち札幌豊平教会は、アジア・太平洋戦争終結 50 周年を迎えた昨年、「私の戦争体験と戦後」と題する教会員の証言集会や、数回にわたる学習会、そしてさまざまな立場での取り組みをとおして、戦前・戦中・戦後の日本の歩みをふりかえり、その歴史の事実を直視してきました。その結果、わたしたちの教会の犯した過ちを認識するにいたり、ここにその罪の告白と新たな宣教の決意を表明いたします。

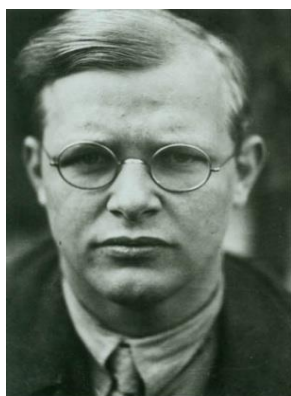
札幌豊平教会は、北星女学校の創設者であった宣教師サラ・クララ・スミスが 1906 年頃、当時の貧民街であった豊平地区の一角に開設した日曜学校をその源とします。その後 1921 年、在日プレスビテリアン宣教師団が、豊平 4 条に土地を購入し、引きつづき、北星女学校関係者が奉仕する日曜学校として伝道してきました。1931 年には日本基督教会に所属した宣教師やこれを補佐する教師試補を中心とした豊平伝道所となり、伝道を発展させましたが、1941 年、牧会するアメリカ人宣教師に対する帰国命令により、宣教活動は停止を余儀なくされました。そして戦後 1949 年、伝道を再開し、1953 年には日本基督教団を離脱し、1951 年に創立された日本基督教会に所属しました。この離脱は、日本基督教団の成立が戦時下における国家権力の強制によるものであり、教団としての信仰告白をもたなかったことに起因し、信仰告白を新たに定めた日本基督教会に札幌豊平教会（当時伝道所）が所属した理由もここにありました。しかし、それは明治からアジア・太平洋戦争へいたる歴史のなかで、日本基督教会が果たした戦争協力などの役割についての正しい認識と十分な反省の上に立った離脱であったとはいえません。わたしたち札幌豊平教会は、貧しい人々や病める人々への伝道に力を注いできましたが、自らが犯した罪と過ちへの認識を欠いたまま、それを告白することなく戦後を過ごしてきました。

ここに、その怠慢と無恥を厳しく反省し神と隣人の前に懺悔します。とくに、アジア・太平洋諸国の戦争の犠牲者に対し、こころよりお詫びするとともに犠牲を強いた国家としての謝罪と完全な補償が一日も早く行われることを強く望みます。そして今後このような過ちが繰返されることのないよう、神のことばによって絶えず改革され、真に神と隣人に仕える教会が形成されることを願います。そのために、この時代を生きる教会としての信仰の告白を吟味し、わたしたちの教会が豊平に建てられた歴史的意義をふりかえり、地域の課題を担います。さらに日本社会がかかえる諸問題の根源にあった天皇制の克服にもとづき、韓国・朝鮮人をはじめとする在日外国人やアイヌの人々とわたしたちの一人ひとりの人権が尊重され、民族差別、性差別のない、自由で、公平な社会の実現を宣教の課題とし、教会のかしら・歴史の主であるイエス・キリストへの信仰に生き、神のことばによる信仰の戦いを共にすることを決意します。

主よ、私たちが憐れみ、わたしたちの告白と決意を真実なものとしてください。

1996年1月28日 日本キリスト教会札幌豊平教会定期総会

ボンヘッファー【Dietrich Bonhoeffer】 [1906~1945]



1931年、留学先のアメリカからワイマール体制末期のドイツに帰り、ベルリン大学私講師に就任。ナチズムがしだいに台頭してくる情勢のなかで、33年にヒトラーが帝国宰相の座につき絶対的権力を握るに及んで、いち早くその悪魔的性格を見抜き、〈ドイツ教会闘争〉の一員として活躍。35年には、〈告白教会〉の創設した非合法牧師研修所の責任者として若い牧師たちの養成に当たったが、それもやがて閉鎖に追い込まれた。

反ナチの闘争・抵抗運動によって逮捕され、敗戦直前に処刑された。獄中で残した多くの著作は、現代の教会と神学に大きな影響を与えている。